



中部電力パワーグリッド



未来へ、めぐらせる。

北陸電力送配電



関西電力送配電

power with heart

Press Release

2026年4月1日

中部電力パワーグリッド株式会社
北陸電力送配電株式会社
関西電力送配電株式会社

送配電事業者間の連携による一層の効率化に向けた取り組みについて ～中地域交流ループの運用開始～

中部電力パワーグリッド株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役 社長執行役員：清水隆一）、北陸電力送配電株式会社（本店：富山県富山市、代表取締役社長：棚田一也）および関西電力送配電株式会社（本店：大阪府大阪市、代表取締役社長：白銀隆之）（以下、3社）は、相互連携による一層の効率化に向けた取り組みを行っています。

[\(2017年6月2日、2022年3月31日、2023年6月30日お知らせ済み\)](#)

このたび、取り組みの一つである3社の500kV系統の交流ループ（以下、中地域交流ループ）の対策工事が完了し、本日から運用を開始しましたので、お知らせします。

中地域交流ループとは、中部・北陸・関西の3エリアを結ぶ電力系統について、従来、中部・北陸間を結ぶ南福光連系所（富山県南砺市）のBTB^{※1}にて直流で連系していたものを、全て交流で環状に常時連系するものです。

中地域交流ループの運用開始により、3社間を結ぶ交流送電ルートが1ルートから2ルートに増加するため、運用容量（電力の輸送可能量）の拡大や供給信頼度の向上が実現できます。また、南福光連系所のBTBについては、保護制御装置^{※2}の更新時期を迎えたため、本日の運用開始にあわせて廃止することで、設備更新コストの低減を図ります。これらにより、送配電事業のより一層の効率的な運営が期待されます。

3社は、今後も引き続き、地域の皆さまのご理解を賜りながら、お客さまに安定した電気を低廉な価格でお届けできるよう努めてまいります。

※1 Back to Back の略で、交流系統間を直流通系する設備。

※2 BTB の潮流や開閉装置を制御し、事故時には系統から遮断する装置。

以上

添付資料：「中地域交流ループの概要」

中地域交流ループの概要

2026年4月1日

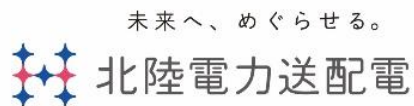
中部電力パワーグリッド株式会社

北陸電力送配電株式会社

関西電力送配電株式会社



中部電力パワーグリッド



未来へ、めぐらせる。

北陸電力送配電



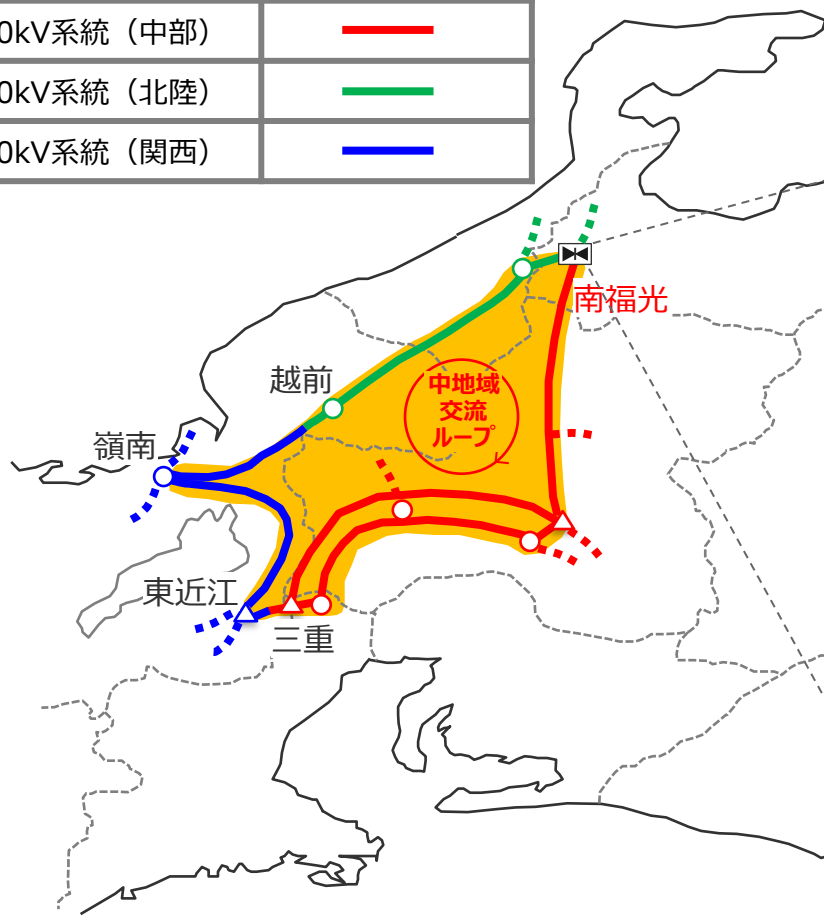
関西電力送配電

power with heart

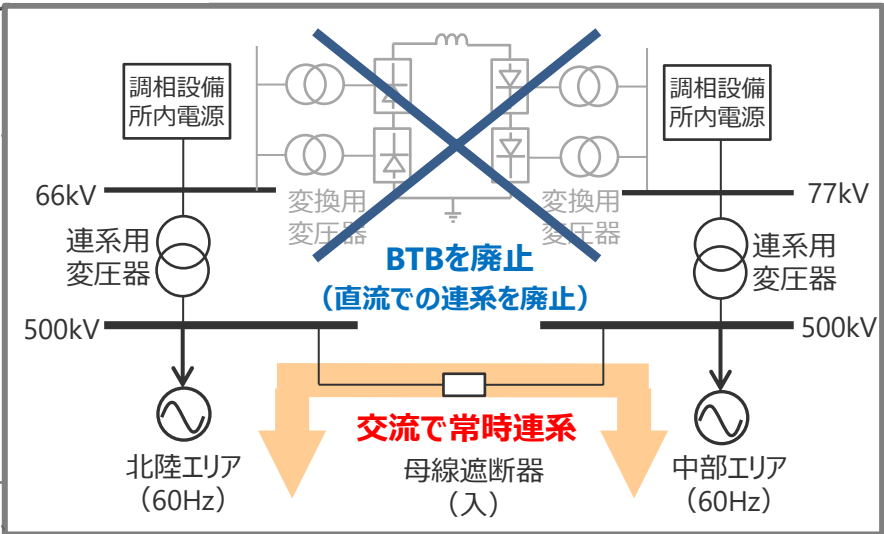
中地域交流ループの概要

- 中地域交流ループは3社の500kV系統を交流で環状に常時接続することで形成される。
- 南福光連系所のBTB（直流での連系）は中地域交流ループの運用開始にあわせて廃止する。

500kV系統（中部）	
500kV系統（北陸）	
500kV系統（関西）	



南福光連系所の設備形成最適化のイメージ

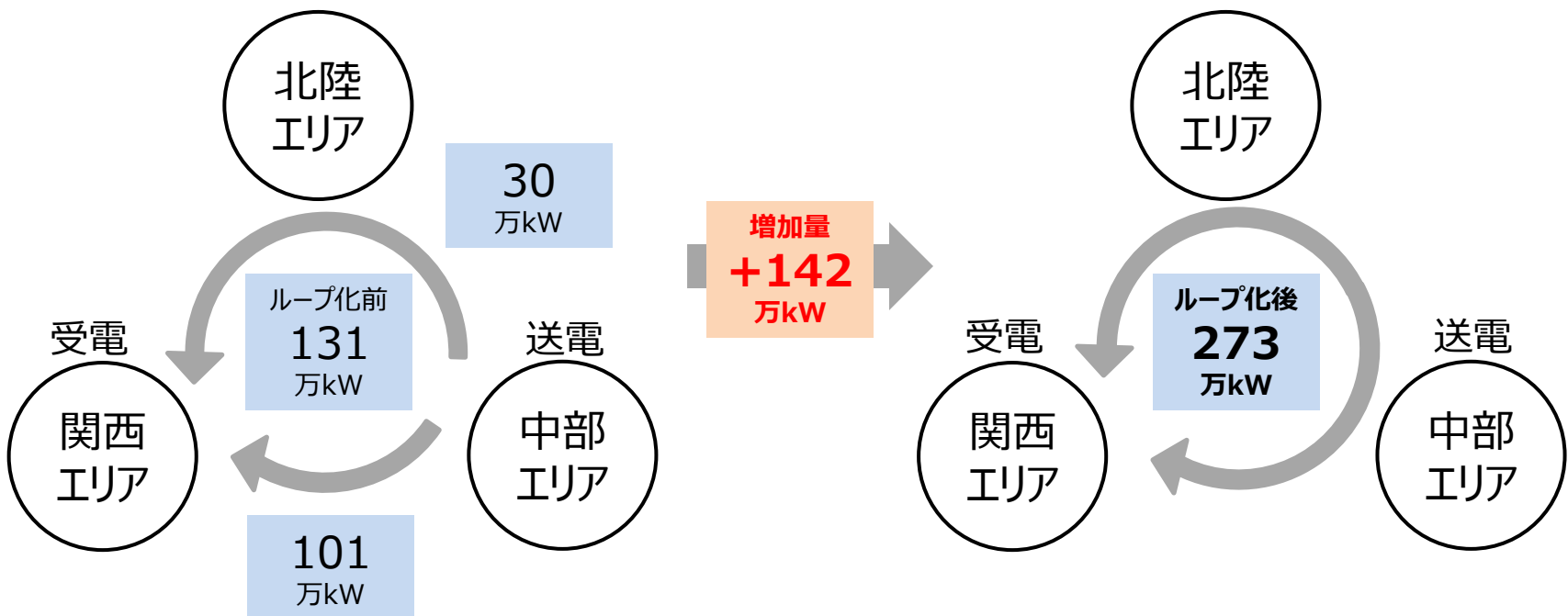


凡例
 ○：変電所 △：開閉所 ◻◻：連系所

中地域交流ループ化によるメリット

- 中地域交流ループの運用開始により、3社間を結ぶ交流送電ルートが1ルートから2ルートに増加し、運用容量（電力の輸送可能量）が拡大するため、2026年8月の平日昼間帯においては、エリア間の受電可能量は20～140万kW程度増加する。
- また、3社間の交流送電ルートの2ルート化により、エリア間の送電線事故時においても、別ルートを紹介した送受電が可能となるため、停電等のリスクが低減され供給信頼度向上が図られる。

（具体ケース） 関西エリアの受電可能量（中部エリア→関西エリア） [2026年8月平日昼間帯の場合]



※2026年8月の平日昼間帯のうち、受電可能量の増加が最大となるケースを記載。
他のエリア間（関西→中部、中部⇔北陸、北陸⇔関西）においても同様に運用容量が拡大。